

福生三中だより

令和6年2月1日発行 No.12

学校教育目標

- 1 よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒
- 2 ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒
- 3 責任を果たし、みんなのために働く生徒
- 4 美しいものを求め、豊かな心をもつ生徒

校訓 礼節

防災への意識を高く、日頃の備えを大切に！

校長 植村 多岐

1月。令和6年の幕開けは抱負を語る間もなく、能登半島地震の悲惨なニュースで日本中が包まれ、亡くなった方の人数が日に日に増えていく状況に、かたずをのんで見守る。そんなつらい毎日が続きました。

このような中、1月18日(木)。被災した輪島市の中学生約400名のうち250名が、100km程離れた白山市の施設に集団避難し、集団での生活が始まったという報道がありました。ほんの少し前まではクリスマスムードを楽しんでいた同じ中学生。その中学生が大地震で住む町や村が破壊され、「家を出るか出ないか」の突然の厳しい選択を迫られる。現地からの「勉強が不安で、僕には行かない選択肢はなかった」や、「家族が心配で、残ってじいちゃんとかあちゃんの力になりたい」とか、「反対したけど、子供が自分で決めたことを後押しするのが親の役割」等々の声に、受験生など家族の支えが今一番必要な時に別れ別れなんて・・・自分だったらどのように決断したのだろうか・・・等々、思わず考えてしまう人も多くいたのではないのでしょうか。全国からの支援により一日でも早い復興が待ち望まれます。

さて、今回の地震が起こった能登地方は、政府による「全国地震動予測地図2020版」によると、最も地震が起こりにくい場所の一つでもあり、今後30年以内に震度6弱以上が起こる確率は、0.1~3%(1000~1万年に1度)だったそうです。信じられないことです。このことから言えることは、「日本には、もはやどこにも安全な場所がない、いつ地震が起きてもおかしくない。」ことを物語っています。ですから、常に「いざという時」を真剣に考えておかなければならない。「日頃の備えが大事」ということになります。緊急時の持ち出し用品などは身近に用意し、すぐに持ち出せるようにしておく。また、自宅待機も想定して数日間の生活ができるように水や食糧を備蓄しておく。家族とは避難時の待ち合わせ場所の申し合わせ、連絡手段などを定期的に話し合っておく。そして何より、私達は一度でもイメージしたことに対しては、比較的対応しやすいと言われていきますから、今回の震災の一つ一つに目を向け耳を傾け、自分事として捉えることで、自分の生活の中での震災時の状況をイメージ・想像しておくことが何より必要です。



「防災への意識を高くもつ」こと、家族の命をまもることが今、強く求められています。

地域の方々から学ぶ講座2/29(木)⑤⑥実施予定の講座決定

今年も『地域の方々から学ぶ講座』を実施する予定です。下記の12講座が行われるので、地域講師の方からたくさんの方を学んでほしいと思います。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ①【江戸の和算から学ぶ】 | ⑦【環境にやさしいエネルギーとガス会社のお仕事】 |
| ②【太陽系の歴史の拾い方】 | ⑧【保育園と保育士の仕事を知る】 |
| ③【気象と防災の話】 | ⑨【やってみよう太極拳】 |
| ④【大正琴を弾こう】 | ⑩【俳句を楽しむ】 |
| ⑤【SAVE MY TOWN 消防団】 | ⑪【ボランティアって何だろう】 |
| ⑥【福生天王ばやし演奏と習得】 | ⑫【モルックに挑戦】 |

いじめ防止サミット 1/16(火)

1月16日(火)5・6校時、昨年度から始まった福生市内全小・中学校をオンラインでつないで「いじめ防止サミット」が実施されました。福生高校と多摩工科高校の生徒も加わり、「いじめをする加害者の気持ち」について議論しました。三中を代表して生徒会長 川端咲姫さんが堂々と意見を発表してくれました。



第I学年 スキー移動教室1/21(日)~23(火)

1/21(日)~23(火)まで、1年生は、スキー移動教室を実施しました。せせらぎホールで出発式を行い、宿舍到着後、早速午後からスキー講習会がスタートしました。最終日は、随分上達していました。

